

令和4年度 全国学力・学習状況調査の結果分析と今後の対策

敦賀市立中郷小学校

4月19日(火)に全国小学校6年生を対象にした「教科(国語・算数・理科)に関する調査」と「質問紙調査」が実施されました。その結果から、本校児童の特徴についてお知らせします。これらの分析をもとに今後の指導改善に取り組み、「知・徳・体」の向上を目指していきますので、ご家庭でのご協力をお願いいたします。

【国語】○良好であった点 ●課題となる点

話すこと・聞くこと

【問題の内容】

「地域のために、学校の近くにある公園をきれいにすること」について話し合いをしている。その話し合いの様子の一部を読んで問いに答える。

【問題】

中村さんが前田さんの発言に対して知りたかったことはどのようなことですか。その説明として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、番号を書きましよう。

1 ペンキをぬり直すことが、公園の遊具で遊べることにつながる理由

2 ペンキをぬり直すことが、自分たちではできないことにつながる理由

3 ペンキをぬり直すことが、公園をきれいにすることにつながる理由

4 ペンキをぬり直すことが、ごみのない公園になることにつながる理由

【正解】3

○必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が尋ねたいことを中心に捉えることができています。

話すこと・聞くこと

【問題の内容】
上に同じ

【問題】

あなたが岡さんなら、どのように話しますか。条件に合わせて書きましよう。

【正解の例】

ごみ拾いがよいと思います。続けることがむずかしい点については、当番を決めてごみを拾ったり、地いきの方にも呼びかけて協力してもらったりするとよいと思います。

●条件を満たして作文を書くことに課題があります。

条件①「ゴミ拾い」か「花植え」かのどちらかを選ぶ。

条件②問題点の解決方法を書く。

条件①の「ゴミ拾い」か「花植え」かのどちらかを選ぶことはできていますが、条件②の「解決方法」を書かずに、選んだ「理由」を書いている児童が多く見られました。

互いの立場や意図を明確にしながら、何を尋ねられているのかをしっかりと問題から読み取ることが大切です。

今後の対策

・複数の資料の中から、指定された条件に従って情報を読み取り、それに対する自分の考えを表現する活動に取り組みます。

・朝アップタイムの時間や普段の授業で「○字以内で書く」「理由・根拠を述べる」「○○という言葉を使う」「自分の体験をふり返りながら書く」等、条件に沿って書く活動を取り入れます。

【算数】○良好であった点 ●課題となる点

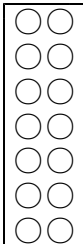
数と計算

Aセット(14個入り)

ゆうとさんの説明

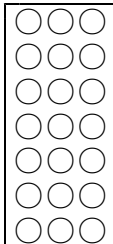
Bセット(21個入り)

1050円



1列のカップケーキが7個ずつ
2列あります。2列の値段が1050
円なので、1050を2等分すれば、
1列の並んでいるカップケーキ
7個分の値段を求めることができ
るからです。

1470円



【問題】1470÷3で求めることが
できるわけを「ゆうとさん
の説明」と同じように書き
ましょう。

【正解の例】

1列のカップケーキが7個ずつ3列
あります。3列の値段が1470円な
ので、1470を3等分すれば、1列の並
んでいるカップケーキ7個分の値段
を求めることができます。

○示された場面から、7こを1つのまとまりとしてみ
ることで、わり算で求めることを理解し、その理
由を記述することができています。

変化と関係

【問題】 リンゴの果汁が20%ふくまれている飲み物が500mLあります。250mLの
飲み物にふくまれている果汁の割合についてまとめます。㊦にあてはまる文を
選びましょう。 250mLは、500mLの $\frac{1}{2}$ ($\frac{2}{2}$ 分の1)の量です。このとき ㊦

- 1 飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になると、果汁の割合も $\frac{1}{2}$ になります。
- 2 飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になると、果汁の割合は2倍になります。
- 3 飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になっても、果汁の割合は変わりません。

【正解】3

●示された場面のように、数量が変わっても割合は変わらないことを理解できていません。多く
の児童が全体の量が半分になると、ふくまれる果汁の量の割合も半分になると解答しました。
まず、「割合とは何か」をしっかり復習していきます。

今後の対策

・割合や比などのように「実際には目に見えないもの」について考える抽象的な問題は、イメージが湧き
にくく、難しく感じられます。日常生活の中で、自分のこととして考えられる内容と結びつけると、取りか
かりやすくなります。例えば、画用紙を切る場面、スポーツやゲームをする場面などで、「1人分は1に対
して $\frac{1}{4}$ (四分の一)」「90%攻略した」など、日常生活と算数(割合)を関連付けていきます。実物が
目の前にあると、思考も具体的になります。ご家庭でもピザやスイカを切る場面、買い物、スポーツやゲ
ームをする場面などで、割合を使ってみてください。また、買い物の際には、「買えるか・買えないか」を
見積もる体験もさせてあげてください。

・学習したことを教室に掲示したり、どうしたら解けそうか話し合ったりして、学力の定着につなげていき
ます。そして、「わかった」「できた」喜びを味わえる経験を増やしていきます。

【理科】○良好であった点 ●課題となる点

生命 【問題】

ナナホシテントウは今もアブラムシを食べているから、皮をくり返しぬいても、アブラムシを食べると思う。

この記録は、だれが記録したものと考えられますか。

- 1 ひろし 「ナナホシテントウの育ち方はどのような順なのだろうか。」
- 2 みどり 「ナナホシテントウは、こん虫なのだろうか。」
- 3 なつこ 「ナナホシテントウはどんなところをすみかにしているのだろうか。」
- 4 あきら 「ナナホシテントウは幼虫から成虫になるまでに食べ物は変わるのだろうか。」

【正解】4

○問題を解決するために必要な観察の視点を基に、予想や仮説を立て、それと記録を結びつけることで、自分の考えをもつことができています。

エネルギー

【結果】

	0分	20分後	40分後
黒	24℃	28℃	32℃
赤	24℃	27℃	29℃
青	24℃	27℃	30℃
白	24℃	25℃	26℃

【はなこさんのまとめ】

「はね返した日光を水の入ったかんに当てると、黒色のかんの水の温度が最も高くなる。」といえる。

【問題】 はなこさんが下線部のようにまとめたわけを【結果】を使って書きましょう。

【正解の例】 黒色のかんの水の温度は、40分後には32℃で、ほかのかんの水の温度よりも高いから。

- 実験で得た結果を、問題の視点で分析して解釈し、自分の考えを持ち、その内容を記述することができていません。結果から、①黒色の缶 ②時間(40分後には) ③温度(32℃) ④比較する言葉(一番、他の缶の水の温度よりなど)を使って理由を書く必要があります。

今後の対策

- ・予想→実験→考察(まとめ)の授業の流れを大切に、実験を行うときに「なぜそのような実験をするのか」理解させた上で実験を行うようにしていきます。
- ・実験結果を書く場合は、視点を明確にして根拠を書かせるようにしていきます。

＜質問紙に関する結果から＞

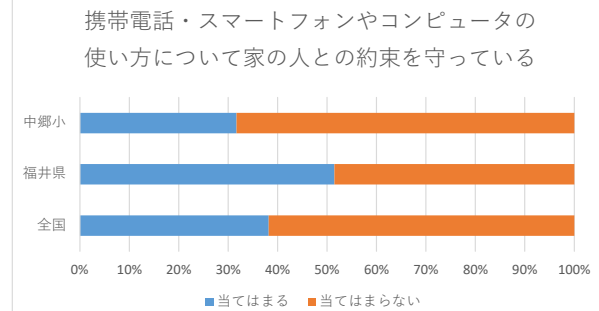
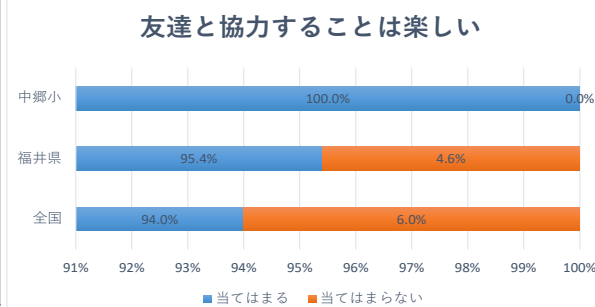
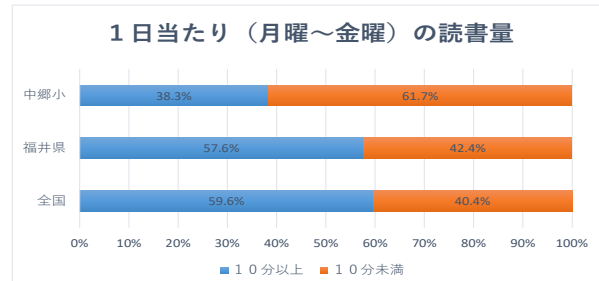
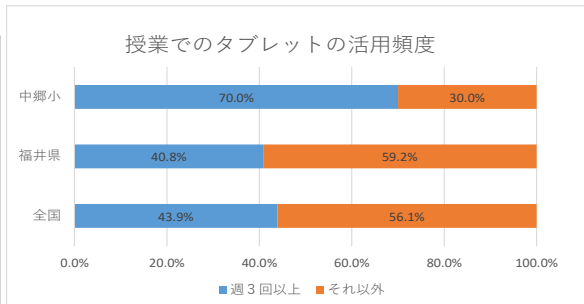
①

中郷小では、タブレットを効果的に活用し、児童が自分の考えを「まとめる」「伝える」「深める」ことができるよう、授業を組み立てています。タブレットを活用することで、児童は意欲的に授業に臨むことができます。特に、自分と友達の考えを比べ、自分の考えをさらに深めたり、学習したことを簡単にまとめたり、分からないことはすぐ調べたりすることが可能になっています。これからも、児童たちにとって、わかる授業を目指し、さらなる授業改善に取り組んでいきます。

②

「平日読書をする」と回答した児童が、県や全国に比べてかなり少ないことがわかりました。本は「頭の栄養」であり、「心の栄養」です。読書を通して新たな知識や気づきを得たり、いろいろな生き方を学んだりすることが、心の成長につながります。学校では、週末読書の記録、朝のアップタイムの読書の時間、図書館で読書する時間などを設けたり、さまざまなジャンルの本を紹介したり、本に親しむ環境を整えていきます。ご家庭でも、読み聞かせや親子読書等に取り組んでいただけるとありがたいです。

○良好であった点



●課題となる点

③

「友達と協力することは楽しい」と感じている児童が多く、とても喜ばしいことです。係活動や委員会活動などで話し合ったり、高学年が低学年のために交流する計画を立て、行動したりする児童も多く、学校全体が温かい雰囲気になっています。また、協働的な学習活動を通す中で、お互いを高めあうこともできています。今後、スポーツフェスティバルや中郷文化ウィークなどを通して、さらに児童が協力・協働できる場面を増やしていきます。

④

「家の人と約束したことを守っている」と回答した児童が県や全国に比べてかなり少ないことがわかりました。近年、インターネットを介して、児童が犯罪やトラブルに巻き込まれる事案が後を絶ちません。児童が安全にICT機器を利用するためには、保護者と児童と学校が、危険性やその対策を理解し、適切に利用するための家庭でのルールづくりを行うことが大切です。中郷小の「ぼくもわたしもeネット」を活用し、折に触れ、学校でもネットモラル教育を進めていきます。ご家庭でもぜひ話し合いをしていただきたいと思います。

今後も職員一同力を合わせ「心ゆたかでたくましい子の育成」に努めてまいります。